



研究所だより

岩城 由紀子

研究所では、2月17日(土)に第4回理事会と研究会を行いました。理事会では、各理事の視点から課題や問題点が出され、活発な議論が行われました。

午後は「協同労働の働き方とは」をテーマに研究会を行いました。まず労協連の高成田健さんから「協同労働の協同組合法」の現況とセンター事業団の実践について説明があり、次に2014年に企業組合法人で「はんしんワーカーズコープ」を立ち上げた代表の馬場義竜さんより協同労働で事業をおこなう理由や特徴、課題や仲間のことなどお話しがありました。報告者の具体的な協同労働の実践を受けて活発な質疑や討論が行われ、特に協同労働の特徴の一つを馬場さんが「強い主体ではないが、弱い主体の形成が可能」と表現されたことに多くの共感が生まれました。

3月の3、4日にかけては「2018年全国よい仕事研究交流集会」が開催されました。2日目の分散会では、事業や地域の異なる60のワーカーズコープの事業所が15のグループに分かれ発言し、そうした実践を受けて27名のコメントーターがコメントしました。日々の仕事に追われる事業所にとっては、実践のなかのよい仕事を客観的に捉えることができるよい機会となります。また、毎年行うことで事業所の変化をみることができます。例えば、放課後等デイサービスを行って

いる岩手県の八幡平地域福祉事業所は、特別支援学校までの送迎に片道40分以上かけて送迎している保護者から要望を受けて無償で朝の送迎を始めたことを昨年報告しました。それを1年間やり切った結果、行政からの支援を引き出したことを今年も報告しています。今年もこの集会のようすを4月、5月号の発見誌で掲載する予定です。

春の気配を感じる季節となり今年度ももうすぐ終わろうとしています。来年度も会員のみなさまとともに研究活動に邁進していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



池袋の道端で見つけたたんぽぽ